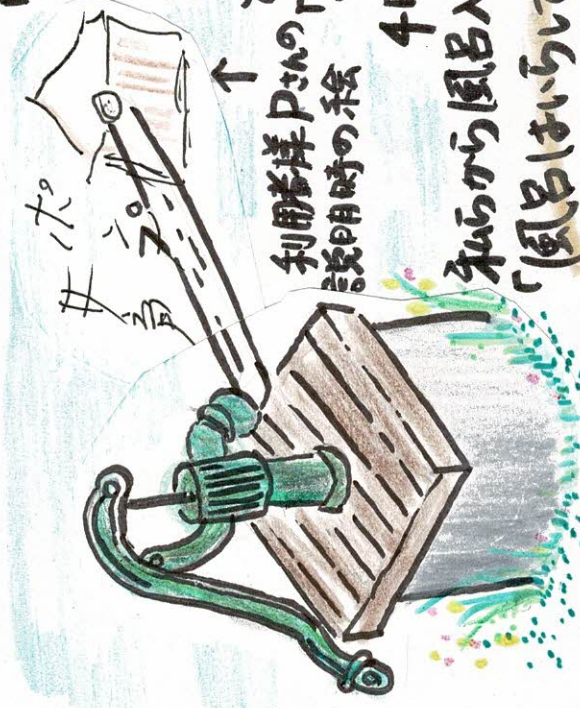


今月のなかはなさん様 お風呂編

今回は利用者様に銭湯^{せんとう}について書いてみました。が！「私らの時代なからた。度々たらいいお湯を入れて大人も。子供も行水してた。そのお湯というのは……火打ち石を使って火をおこしていたさうぞう。焚き物の木拾いは。子供の小遣い稼ぎでよく山へ拾いに行ってたよ。当時お風呂があった家は少なくな。てておや(お父さん)が左官屋で。手が器用で自分で風呂をこさえてお話をきかせて頂きました。

「家の外のサアからポンプで水を引き上げトタンを丸めた筒を壁にさして。大きい木のあけ。五右衛門風呂へ水を送る風呂を



↑ 利用者様Pさんの説明時の絵

ここでおやが、こさえてくれたんよ。」

「おばあちゃんは。風呂の火たき番で毎日夕方4時から火をおこしはじめ。5時頃からまごらの

私らから風呂入らせてもらった(当時8歳)

「風呂はいらしてもらうぞー。隣近所。兄妹が順番にやてきて10人位は毎日入りにきてた。お風呂の水足しや掃除は。長男の嫁さんがしてくれてた。体の大きいきれいなお姉さん。昼間はもも割れ頭で二見て。女中さん。家に帰ってくる時みつ編み頭で百姓仕事とお風呂の仕事。子どならよう頑張りてるお嫁さんやほと鬼てた。

戦後焼け野原で何もかもなくなった時代私らが生き残った昔はな。なにこども細かいこどもで考え。自分らで判断して動いたもんよ。近所で何かことがあったら手伝う。協力し合う。私は みんなに育ててもらった。



いじがあたかくなるお話をきかせて頂きました。🍎